

第4回超領域社会工学研究会活動報告

第4回超領域社会工学研究会を2016年12月10日（土）に愛知医科大学看護学部棟4号館において開催致しました。

また、翌11日には、名古屋市内におけるパワースポットめぐりをテーマに実地研修を行いました。

研究会での発表は、

- 安田裕子 「スピリチュアルケア
－自己への気づき、セルフケアとパワースポット」
- 西尾安正 「日本会議と生長の家」
- 村上恒夫 「言ってはいけない 残酷すぎる真実」にみる科学的とは？
－科学的という言葉で非科学的なまとめを押し通す」
- 増子保志 「大きいことはいいことか？
－男のパワースポットを考える」
- 加藤香須美 「コミュニケーション講座を分析する」
- 草野純子 「パワースポットと人体への影響についての考察
－磁力との関連から」
- 長井壽満 「神智学と現代オカルト文化
－ゲーテンベルクの印刷術とダーウインの進化論を起源として」

今回は“パワースポット”をテーマの中心に発表をおこないました。遠方にも関わらず、7名の参加者があり、硬軟、大小、テーマに即したもの、こじつけたもの、全くテーマにそぐわないものなど、当研究会の特色に見事にマッチした多様性のある発表でした。

韓国料理を囲んだ、第2次研究会では、さらに1名参加者が加わり、マッコリを片手に議論を深め、締めでは、会長による“みなさん最高ですか？”という掛け声とともに、参加者一同“最高です！”と研究会の発展を祈念しました。

翌日は、名古屋城、熱田神宮、大須観音と名古屋3大パワースポット巡りを行いました。名古屋城では、みたらし団子のタレの味が通常とは若干異なることを発見し、名古屋城のもつ潜在的エネルギーの関与について考察しました。さらに熱田神宮では、名物のきしめんを舌鼓を打ちながらも“神聖なる木”と言われている楠の木の温度を携帯型サーモグラフィーで測定し、驚くべき結果を得ることができました。これらの結果は、今後論文にまとめる予定です。

2日間にわたった今回の研究会は、会員相互の親睦を深めるとともに各自の
関心テーマを深化させることができ、大変有意義なものでした。次回は4月に
開催する予定です。

(部会長 増子保志)



活発な討論中

名古屋城の鯨と研究会の面々



神聖な楠の木の温度を測定